

CAVOKV 航海日誌10

9/14(Parmizana)～10/6(Pireus)

2012 年 10 月 9 日松崎義邦氏メール(Pireus より)

10 月 5 日にアテネ近郊ピリウスのマリーナに入港しました。9 月は 7、8 月に一度北上したクロアチアを南下して再度アドリア海を楽しみました。

ヴェネチアから約 3 週間一緒だった小田切夫妻はドブロヴニクで帰国され、入れ替わりで棚橋道子さんがここから一緒しました。

コルチュラでは 2 年前よりスペイン、アルメニマールから地中海を航海中の“テマリ”の関山さんとピンポイントで会うことが出来ました。夕食を一緒にしたり情報交換をしたり楽しいひと時を過ごしました。

モンテネグロの古都コトルは奥の深い入り江の中にあり神秘的な古都でした。アルバニアはまだまだ整備されてなく見るべきところもないとの情報でしたので通過することにして上田佐和子さん、棚橋道子さんの力を借りて 200NM 一昼夜半で一気にギリシャのコルフ島までのロングセーリングもしました。コルフ島で道子さんは帰国してここからは佐和子さん、悦子との 3 人のクルージングになりました。

イオニア海のギリシャの島々に寄りながらペロポネソス半島に着き、ここでは世界遺産になっているコリントス、ミケーネ、オリンピア、エピダヴロス等の内陸の古代ギリシャ遺跡を堪能しました。対岸のデルフィ遺跡では古代世界の中心と考えられていたところで素晴らしい遺跡の見学が出来ました。コリントス運河もスムーズに通過することが出来エーゲ海に入り、アテネ近郊のピリウスに隣接のZea Marinaに入港しました。

ここでHMYCのコモドアをされていた田中厚一郎がお待ちで 5 日ほど一緒にエーゲ海を楽しむことにしています。

クロアチア航海中は秋の気配が強くなりましたが南下してギリシャに入ったら夏がぶり返してきました。と云いましても日が暮れると秋風で過ごしやすい気候です。

天候には相変わらず恵まれ空の青さ海の碧さの中でのセーリング、そして歴史探訪を楽し

んでいます。

Athens,Pireus にて、松崎義邦

航海日誌10(9/14~10/6)

9月14日(金)Palmizana 曇り時々雨

昨日まで居たチャーターヨットは殆ど朝出港していった。チャーターヨットは土曜から金曜までの一週間でチャーター期間の単位なのでそれぞれのチャーター基地に帰って行ったと思う。期日が決まっていると天気が悪くても出港しなくてはならないので厳しい。

我々は明日の天気の回復まで歯抜けになったポンツーンで待つ。幸子さん、佐和子さんは11時頃の水上タクシーでフヴァルの町へ観光と買い物に行く。昨日スルメを餌にして海に沈めて置いた置き籠を揚げると何と全長50cm位のアナゴが入っていた。

艇の残留組の小田切さん、悦子と私はそれぞれ釣りをしたり読書をしたり昼寝をしたりして過ごす。私にとって好きな時間だ。お昼はうどんを頂くが時折雨が強く降る中での暖かいうどんは美味しかった。

幸子さんと佐和子さんは16時過ぎにピザをお土産に戻ってきた。夕方になり晴れ間が出てきたので洗濯とデッキの水洗いをする。夕食は今日籠に入っていたアナゴの煮つけ、野菜シチューとチラシ寿司を頂く。

9月15日(土)Palmizana~Korcula(35NM)快晴

午前中は東の向かい風が未だ強いので風の治まってくる頃合いのお昼前に出港することにした。朝のんびりした後10:45に舳いを解きパルミザーナのマリーナから向かいにフヴァルの町をみながら海峡を抜けていく。

当初波と風が残っていたが、だんだん弱まりお昼に昨日のお土産のピザとお寿司のおにぎりをビールで頂く。冷凍庫のお蔭でガンガンに冷えたビールが飲めるので幸せだ。

静かになった海面をセーリングするが途中風がシフトして真登りになり機走も交える。コルチュラ島と本島との間に入ってから風が後ろに廻り追っ手でコルチュラのマリーナ手前まで

セーリングする。本島は石灰岩の高い山が聳えその対岸のコルチュラの町を一層引き立てていて美しい景観だった。

18:00にACI Korucula Marinaに舫う。前回は7月でマリーナー杯に艇が係留してあったが9月に入ったせいか空いている箇所が多数あった。

今日は慶応のKCC(KEIO Cruising Club)に所属していた関山(46年卒)夫妻とここコルチュラで会う予定をしていた。関山夫妻は昨年春にスペインのアルメリマールを出港して地中海をギリシャ、トルコ、イスラエルまで航海して地中海を戻ってくる途中だ。(彼らの航海記は“ヨットてまり”www10.plala.or.jp/yacht-temariのホームページで見ることが出来ます。)

我々が入港していくと関山夫妻が“てまり”のデッキの上で手を振って歓迎してくれた。お二人とも真っ黒に日に焼けとても元気そうであった。早速デッキで我々の恒例の到着の乾杯と一緒に関山夫妻を交えて久しぶりの会話が弾む。

夕食を一緒にCAVOKVで食べることにする。関山さんはここに来るまでにカツオが釣れたそうでそれをカルパッチョにして届けてくれた。ビーンズサラダ、稲荷寿司、巻き寿司そしてカツオのカルパッチョを日本酒で頂く。総勢7名でにぎやかな美味しいお食事になった。

9月16日(日)Korcula 快晴

朝早く風の音で目が覚める。北からの強風で海面一面白波が立っている。レイドラインから取った船首からの舫いが風で伸びてスターンのフェンダーが岸壁と擦っている。

人力では舫いを引ききれないのでエンジンをかけて小田切さんに手伝ってもらい何とか岸壁から離す。予報ではなかった風だったので驚く。この強風の中、一艇沖でマリーナに入ろうとしている艇がタイミングを見図るように行ったり来たりしている。

意を決したのか強風化の風下にあるマリーナに入港してきた。飛沫が散る岸壁に何とか舫いを取ることが出来たのを見てホットする。危なくて岸壁に彼らの艇の舫いを取に行くことは出来なかった。

朝食はゆっくりと9時に町のレストランでとる。関山さんと皆さん全員で10時過ぎより全長200mも満たない旧市街地の観光と買い物に出かける。聖マルコ大聖堂では日曜日のミサが行われていた。近くのマルコ・ポーロの生家と伝えられている建物の塔に登り見晴らしを楽しむ。

私は 2 回目のコルチュラだったが、クロアチアの本土の山が近くに迫り海峡の海の色と手前のコルチュラの建物とそれぞれの石灰岩の白、山麓の緑、海の蒼そして建物の屋根のレンガの橙色と美しい光景は何度見ても素晴らしい。

聖マルコ広場で今夜のコンサートの準備をしていたので開演時間を聞いて行くことにする。

“手まり”の関山さんとお互いの行く先の情報交換を行う。貴重な情報を得ることが出来た。そしてトルコではガスボンベが違う形と云うことで“手まり”のトルコ用ガスボンベを譲って頂く。

コンサートは 21 時からなのでその前に皆さん一同で外食することにする。海辺の見晴らしの良いレストランで肉の盛り合わせプレート、海の幸盛り合わせプレートをみんなで食べる。夕暮れの海峡に大型帆船が停泊しておりきれいな夕暮れであった。コンサートは野外でチェンバロ、チェロ、リコーダ、バイオリンの 4 重奏のバロック音楽だったが流石音楽の国クロアチアだけあって見事な演奏であった。特にリコーダは素晴らしかった。

9 月 17 日(月)Korcula~Dubrovnik(50NM)快晴

風も治まり朝 06:40 にコルチュラを出港する。本土の山間から丁度朝日が出てきた。

快晴の下、本土からの北風をアビームに受けて時には7ノット以上の速度で滑るが屋前に風が落ちて機走の時間が増える。

このレグは小田切夫妻の最後のレグになる。早めにドブロヴニクに近づいたので南西に変わった風をジェネカーで受けてのんびりとセーリングを楽しむ。

ドブロヴニクのマリーナは旧市街地の反対側の入り江の奥にある。片側には山が聳え中々の景観だ。

ACI マリーナ ドブロヴニクに 16:30 に舫いを取る。静かで景色も高原の湖に係留した感じた。このマリーナは施設も大変整いクロアチアで一番の評価を受けているマリーナだ。



今日は夜遅く棚橋道子さんがドブロヴニクの空港に着く予定だったので 22 時過ぎに電話して元気な声を聞く。

彼女は今日ドブロヴニクのホテルに泊まる。明日 10 時に迎えの約束をする。夕食はローストチキン、野菜スープ、サラダを頂く。

9 月 18 日(火)Dubrovnik 快晴

朝 9:10 のバスで道子さんの泊まって居るホテルに全員で迎えに行く。ホテルで部屋に電話したら出てこないで携帯電話に電話したところ銀行に居るとのこと。昨日 ATM からカードでお金をおろそうとしたところカードが出てこなく、その処置で銀行に行ったとの事だった。大した問題でなくホットする。

その後ドブロヴニクの町を観光する。凄い観光客の数だ。ドブロヴニクはアドリア海の他の町の歴史と同じ様な経緯で紀元 7 世紀にスラブ人に追われた住民がアドリア海の岩礁に逃れてきて町を形成したのが始まりだそう。その後ドブロヴニクは海洋都市国家(ラグーサ共和国)として通商で栄える。その間ビザンチン帝国の支配、帝国亡き後はヴェネチア共和国の支配下にはいる。

オスマントルコの台頭による占領を免れ、独立を維持することが出来たのは、オスマン朝との巧みな外交だった。貢納金を納めることによりオスマン朝との交易も認められこの権益により飛躍的に発展していった。

フランシスコ修道院には 1317 年に開業したクロアチア最古の薬局がある。何と現在に至るまで休業することなく続いているそう。



小田切さんと私は旧港から出るグラスボートに乗り外から旧市街の城壁を見る。海から見た後、旧市街をしっかりと囲む高い城壁に登ると外にアドリア海、内に旧市街が覗けた。

帰り道子さんの泊まっていたホテルにより荷物を取って艇に戻る。日本から荷物の半分は食糧と云うほど日本食を道子さんが運んでくれた。

今晚は送別会と歓迎会を兼ねた大ご馳走で ひじきの煮物、キドニービーンズの煮豆、お赤飯、タケノコの土佐煮、きんぴらごぼう、道子さん持参のからすみ、小田切さんアラスカから持参の smokedサーモンを日本酒、焼酎、ワインで頂く。からすみで日本酒は堪らなく美味しかった。

9月19日(水)Dubrovnik 晴れ

昨日24時間のドブロヴニクパスを買ったので女性陣は朝早くからバスに乗ってドブロヴニクに出かける。昨日開いてなかった教会等を見に行った。

小田切さんと私は艇に残り二人でマリーナのプールサイドのレストランで朝食をとる。

小田切さんは今日帰国の途に就くので荷物の整理、私はメンテナンスで4つあるバッテリーのうち3つが弱いので新品と交換する。14時にマリーナよりタクシーで空港に向かう小田切夫妻を見送る。3週間一緒だったので別れが寂しかった。

お二人を見送った後プールサイドのバーで午後の日差しを浴びながら残留組でお茶を飲む。

今日はお昼をちゃんと食べてなかったので皆さんお腹を空かして17時過ぎからコックピットでハモンセラノをおつまみに一杯始めて、そのまま夕食のクロアチア名物のソーセージを使ったシュークルトを赤ワインで頂く。クロアチア産ソーセージはシュークルトにしてもソーセージの味が残り美味しかった。

9月20日(木)Dubrovnik 雨、曇り後晴れ

昨日の夜は前線の通過で、時折大雨と雷鳴が鳴り響いた。朝になっても雨は治まらず、やっと朝食の時に雨が止んだ。マリーナのプールサイドのレストランに朝食を食べに行く。

出来れば今日中に出国手続きの出来る12NM先のCavtatに艇を移したいと思っていたので今日の天気の様子を暫く観察する。昼頃晴れ間も出て来たが未だ海の方は波が高いとの事だったので今日の出港を取りやめにして、ここから40Km北のStonに観光に行くことにする。

ここはドブロヴニク共和国の領地であったペリエシャツ半島をヴェネチア、オスマントルコから防衛するための長大な城壁があり、そして中世のころからの塩田が未だ活躍中であり、又牡

蠣の養殖でも有名だ。

ストーンに着き早速塩田を見てから名物の天然塩を購入して、城壁を上る。この城壁はストーンから対岸のマリ・ストンの町まで険しい山の稜線を越えてつながっている。マリ・ストーンは牡蠣料理の店が集まり、新鮮な牡蠣を食べさせてくれる。ここの牡蠣は日本の牡蠣と違い殻が丸く平らな平牡蠣と云われる種類で小ぶりであっさりした味でレモンを絞って食べると美味だ。

オイスター・イン・アイス、オイスター・スープ、ベークドオイスター、フライドオイスター、グラタン・オイスター、オイスター・シーウイードの牡蠣尽くし6品のコースを食べる。生は新鮮で、その他の料理の味付けも絶品でレモンを絞って食べたが、すべて美味しかった。

私だけ運転手なのでワインは飲めなかったが皆さん白ワインを美味しそうに飲んでいた。夕食はお昼が遅かったのが皆さんお腹が空いてなかったのがハム、チーズ、昨日の残りのシュークルトで済みます。

9月21日(金)Dubrovnik～Cavtat(12NM)～Kotor(35NM) 快晴

昨日カブタットまで行けなかったのが今日カブタットによって出国手続きをしてモンテネグロの Kotor に行く。

朝 06:40 に舳いを解き入り江を 2 km程走りドブロヴニクの旧市街地の城壁を目の前に見ながらカブタットに向かう。09:10 にカブタットの港に入りハーバーマスター(港湾局)で艇の出国手続きを行いその後ポリスでイミグレーションを行う。カブタットは小さな漁村が観光地化された所だ。

カブタットまでは時折 20 ノットを越す良い風が吹いていたがコトルに近づくとつれて風が弱くなり機帆走で行く。

コトルも入り組んだコトル湾の奥深くにあり入り江の入り口から 14nm ほどの距離がある。奥に行くに従い 1000m 級の山が聳えたてきて見事な景色になってくる。



一番入り江の奥にある世界遺産である古都コトルの税関岸壁に 16 時過ぎに着けて手続きを行いモンテネグロに入国する。

その後旧市街地の真ん前にあるマリーナに移動して舫う。陽が暮れる前に旧市街地の外壁の周りを散策してからシャワーに入り艇で食事する。

野菜スープ、豚のグリル、ポテトサラダ、トマトとアスパラを頂く。この豚はクロアチアで買った豚だが豚料理が盛んなクロアチア産だけあって美味しかった。旧市街地の裏にそびえ立つ山の中腹迄伸びている城壁に明かりがともり静かな夜を迎えた。

9 月 22 日(土)Kotor 快晴

朝起きると、高原の様に山々に朝日を浴びた光景が目の前に広がっている。今日はゆっくり一日古都コトルを観光で過ごすことにする。

女性陣は朝市に買い出しに行く。その後 マリーナの裏にある旧市街地の上に聳える城壁を上る。約 1 時間のコースと云われたが一番上の要塞迄上がるだけで 1 時間要した。頂上からの見晴らしはマリーナに停泊してある CAVOKV と旧市街と共に見る事が出来素晴らしい景観であった。

港には大型トールシップが二隻停泊しており古都コトルにピッタリの光景であった。小さな旧市街地であったが町の中は総ての施設が整っていて中世の豊かな文化を感じた。

明日早朝の出港予定なので出国手続きを調べに行くがハーバーマスター(港湾局)は朝早くは開いてないとの事、明日朝早い出港したいと云ったところ手続きしてくれた。したがって明日カスタム用の棧橋に着けてポリスでの出国手続きで終わるように出来た。

シャワー浴びた後の夕食は、朝市で買った茹で海老、インゲンの胡麻和え、ムラサキブロッコリー、ナスの揚げ煮、オラーダ(黒鯛)の香草焼きをクロアチア産ロゼで頂く。

野菜は新鮮で、魚も身がしっかりしていて美味しかった。

9 月 23 日(日)24 日(月)Kotor~Corfu(200NM)快晴

最初の計画を変更して Bar, アルバニアをパスして一気にギリシャ Corfu 島まで行くことにした。200NM で 1 昼夜半かかる行程だが力強いヨット部後輩佐和子さん、道子さんが乗っているの

で長いレグを計画した。朝 5 時に起きたが未だ真っ暗だ。お天気をインターネットで調べてから暗いうちにカスタム用棧橋に艇を移動させポリスで出国手続きをする。

薄明の中 06:10 にカスタム棧橋を離れ外洋迄 15NM ある深い入り江を 2 時間ちょっとで通過する。風はべた凧で、機走するがコルフへの到着が翌日暗くなる前に着きたいので 6 ノット以上の速度をキープする。南下する我々に、当初ベタンコだったが、途中東の良い風になったので機帆走で 7 ノット以上の速度で快調に静かなイオニア海を走る。

お昼はラーメン、夕食は豪華にローストビーフ、パスタ、サラダを日が沈んだ後の薄暮の海で頂く。これからナイトセーリングが始まるのでビールは少々にする。

月は半月で夜半 2 時過ぎまで海面を照らしてくれ、月が沈んだ後は、星が空一面に広がり夜空を楽しめた。明け方から風が強くなり 20 ノット強の風がヘッドから吹き始めたのでメインをリーフして機帆走する。朝方風はだんだん南に変わり波も出てきてピッチングもするようになり速度も 5 ノット以下に落ちる。

予報通りの風の変化であったが日中距離を稼いでいたのでこれも予定の範疇であった。嬉しかったのはお汁粉を用意してくれ午後のおやつに出してくれたことだ。一杯のお汁粉が一昼夜半の帆走の疲れを吹き飛ばしてくれた。

アルバニアとコルフ島の中の狭いノース・コルフ・チャンネルを通過して風も治まり 16:00 にコルフ島の Gouvia Marina に舫いを取る。ここは大きなマリーナで 1200 隻以上の艇が係留でき、施設も整っていて、修理、ショップ、レストランそしてプールもある立派なマリーナだ。

本来はカスタムのある岸壁に着けて入国手続きをするのだが、ここはマリーナに着けて陸路カスタムのある港に行って手続きをすれば良いようになっている。それも今夜は遅いので明日で良いとの事、明日ギリシャへの入国の手続きをしに行くことにする。段々南下するに従い暖かくなり夏が戻ってきたようだ。

いつものようにビールで乾杯してからシャワーを浴びてすっきりさす。夕食はローストビーフの残りも入れたカレーライスを頂き心地良い熟睡に入った。

9 月 25 日(火) Corfu 晴れ

マリーナは町から離れているので観光用を兼ねてレンタルカーを借りることにした。

まずはカスタムのある新港に行って手続きを行い、その書類を持ってマリーナにあるハーバーマスターに行きヨットでの入港の最終手続きをして終了する。各国方式が違うので注意が必要だ。

ゴムボートのテンダーを前甲板の上に載せてセーリングしているが雨や波があるときテンダー内に水が入るので上にカバーがかかるようにこのセールメーカーに発注したり、又スプレーフードの修理を依頼する。

午後からは世界遺産の旧市街地含めて島内を廻ることにした。コルフ島はかつては東ローマ帝国、そしてヴェネチアと交易の要所であった。オスマントルコからの侵入を恐れ立派な要塞が東ローマ帝国の時代からヴェネチアの時代に作られた。底から延びるヴェネチア風の建物の町並みの旧市街地は世界遺産になっている。

近代ではフランス領になったりイギリス領になったりした。オーストリア、ハプスブルグ家のエリザベートが愛したアヒリオン宮殿がある。ここはエリザベートが晩年頻りに滞在された場所でイオニア海を望む高台にあるルネサンス様式の当時のハプスブルグ家の繁栄を思い起こす素晴らしい建物で中には当時の美術、工芸品が陳列してあった。

旧市街地では 8 世紀初頭に東ローマ帝国によって造られオスマントルコの脅威が増すにつれて強固な要塞になったパレオ・フルリオ(旧要塞)を見て島の北側が風光明媚と云うことで海岸線をドライブする。

西海岸沿いの Paleokastritsa は豪華な別荘地で 5 星クラスのホテルも立っている。イギリス時代の名残があり西ヨーロッパのリゾート地になっている。海辺に建つレストランで夕陽を眺めながら皆さんお酒を飲むが私はジュースで我慢だった。

9 月 26 日(水)Corfu 晴れ

今日は道子さんが空路アテネ経由で帰国する日だ。

昨日見る事が出来なかった旧市街の教会、博物館を見に行く。旧市街のタベルナで道子さんとの別れを惜しみながらギリシャサラダ、イワシ、タコ、イカのグリルと典型的なギリシャ料理を楽しむ。ドブロヴニク、コトル、コルフと短い期間だったが道子さんと一緒に一昼夜半のセーリングと世界遺産の観光が出来た。空港に 15 時に送り別れる。

マリーナに戻ってから佐和子さんとプールで泳ぎ日中の疲れを取る。夕食は 3 人だけにな

って寂しくなったが具沢山の美味しいカレーを頂く。

9月27日(木)Corfu 快晴

一日ゆっくり休むことにした。毎日遊びの日々だがこの何もしない休日が良い時間だ。ここはマリン関係の店、整備が充実していて今まで出来なかったことが出来た。スプレーフードの修理、テンドーのカバー、ジブシートの交換、その他諸々の部品が手に入った。またギリシャのインターネットキーも手に入れることが出来て安心した。

お昼に稲庭うどんを食べた後それぞれ休んで夕方にプールで泳いでプールサイドでビールを飲む。楽しい時間だ。

夕食はエビのタパスとハム入りサラダでジントニックを楽しみ、メインは何とブリの照り焼きをご飯で頂く。道子さんが遥々届けてくれたブリ照りは美味しかった。

9月28日(金)Corfu～Paxoi(32NM)快晴

ガソリンスタンドが 09:00 オープンなのでその時間に合わせて舳いを解き 09:20 に港を出港する。穏やかなイオニア海を微風の中機走する。途中風が順風になるとセーリングを楽しむ。これは穏やかな夏の典型的な地中海セーリングだ。

16:10 にパクス島の Gaios にアンカーをバウから取ってスターンを岸壁に舳う。狭い通路の様な場所に槍付けで着けるだが観光船のアンカーが長く伸びていて最初の予定の場所に打てず別の場所を探して舳う。

佐和子さんと私は港の外の小さな海水浴場で泳いで艇のシャワーを浴びる。岸壁の直ぐ前はレストラン、お土産屋が並んでいて夜遅くまで煩かった。夕食は CAVOKV の係留してある前のタベルナでギリシャ料理をチポロで頂く。ここは陸電が無いので夕食後は速やかに就眠した。

9月29日(土)Paxoi～Ithaca (55NM)快晴

薄明の中 07:20 に出港する。15 分後には日の出を拝むことが出来た。今日も地中海天気だ。穏やかな海面、微風そして順風のパターンだ。機走、機帆走、帆走の繰り返しだ。地中海でのセーリングボートは機走しているケースが多くみられる。

順風時ジェネカーを張って 7 ノットの速度は気持ち良い。イオニア海万歳である。ウオッチは佐和子さんと 1 時間の交代でやっているが休み時間のデッキでのうたた寝は気持ち良く最高だ。

途中小泉八雲の生誕地であるレフカダ島を脇に通過する。イタキ島は小さな島だがトロイヤ戦争で勝利したオデュッセウスの故郷の島だそう。これからはギリシャの歴史やギリシャ神話の世界に入り楽しみだ。

最初の目的地 Frikes の港に入るが小さな港にチャーターヨットの集団が入っていて係留場所もなさそうなので隣の入り江にある同じく小さな港にアンカーを打ってつける。舳を岸壁に取るのにテンダーを降ろす手間を省いて泳いで取る。底まで水が透き通りきれいだ。

港の周りにはタベルナが数軒軒を並べギリシャの港らしい光景だ。今日は満月だ。月が上がってくる東に開いている湾口に見える海が月明できらきら光り周りの景観と共に美しかった。

月明かりの中夕食はハムとレタス、特大オリーブで一杯飲んでから、何とひつまぶしを頂く。勿論仕上げは海苔とわさびを入れてお茶漬けをした。ここも電気が来ないので月明かりを楽しんでから速やかに就眠する。

9 月 30 日(日)Ithaca~Patras(55M)快晴

朝 06:55 に舳を解き湖の様な静かな入り江から出港する。30 分後に西の山に満月が沈み、暫くして東の山間から太陽が出てくる。今日の航海も地中海らしい航海で晴天の中、無風で機走したり順風でジェネカーで快走したりののんびりセーリングだ。コリント湾に入りペロポネソス半島と本土との山の景色が美しい。

18:00 に Patras のマリーナに舳を取る。ここは日曜日マリーナがお休みでスタッフが居なかったので勝手にビジターバースに着ける。夕食はトマト、玉ねぎ、パセリと生ハムのサラダそしてポークのトマトソース煮込みでご飯を頂く。

10 月 1 日(月)Patras 快晴

朝 9 時にレンタルカーを借りに行きオリンピアの遺跡の見学に行く。小学校からオリンピックの発祥地として知っていたが訪問するのは初めてで胸が躍る。

オリンピック聖火の採火が行われるヘラ神殿、オリンポスの神々の最高神のゼウスを祭るゼウス神殿、スタートとゴールラインが残る競技場を見て回る。最後にオリンピア考古博物館に行くが新石器時代からミケーネを経てローマ時代に至る展示があり見応えがあった。オリンピア遺跡の後スパルタ、ミストラの遺跡を見る予定をしていたがオリンピアを見るだけで時間を取られて行くことは出来なかった。

明日の出港の準備をしてからシャワーも浴びて夕暮れのデッキで夕食を頂く。ゴージャスなメニューで小エビとガーリックのオイル煮、ルッコラとトマトのサラダとキャベツ、キュウリ、ニンジン、玉ねぎの浅漬けサラダ、そして牛ひき肉、玉ねぎ、ポテトのフレンチ風グラタンを赤ワインで頂く。お料理して頂く方々に感謝をする。

10月2日(火)Patras~Itea(40NM) 晴れ

今日はペロポネソス半島からギリシャ本島の Itea に向け 08:00 に舳いを解く。

Itea のマリーナから 5NM 先にペロポネソス半島とギリシャ本島を結ぶ 2005 年に出来た橋があり、そこは狭い海峡なので通過するのにコントロールセンターの許可を得てから通過するようになっている。幸い行き交う船も少なくスムーズに通過する。

殆ど機走で 15:30 に Itea のマリーナの岸壁に横付けする。係留している艇も少なく我々以外の外来艇は 2 艇だけだった。ギリシャの経済を表すのか電気、トイレ、シャワーの施設があるが手入れもされてなく管理者もいなく機能していない。これだけの施設なのだと思う。係留してから直ぐ世界遺産でもあるデルフィ遺跡にタクシーを拾い行く。

Itea から車で 30 分ぐらいの丘の上にあるバックは険しい山に囲まれ、前方には山々が良く見える見晴らしの良い場所にある。ここは紀元前 6 世紀が全盛期だったそうでギリシャだけでなく古代世界の中心でもあった。



アポロン神殿ではアポロンの神託が行われ、個人のみ

ならず国の大事を決定していたようだ。一番丘の上の見晴らしの良い所には古代劇場、そしてアテネがマラ톤の戦いでペルシャ軍に勝利した感謝のしるしとしてアポロン神に捧げた宝庫の建物が見事復元されていた。タクシーは往復 60 ユロで頼んだがその価値は十分にあった。

艇に戻ってから艇のシャワーを浴びて夕食にサーデンのマリネ、ポトフを頂き電気がないので早く就寝する。

10月3日(水)Itea~Corinth(38NM)晴れ

07:25 に舳いを解く。08:00 に山間から太陽が顔を出す。予報では風が西からの 10~15 ノットの追い風であったが予報より風が強く 25~30 ノット近くの西北西の風が吹く。我々は東に行くので 2 ポイントリーフで 7~8 ノットで快調に走る。

14:00 に Corinth のマリーナに入港するがここも管理する人が居ない。岸壁に横付けでカタマランの後ろにつけようとしたがカタマランの人がここは浅いからやめた方が良いと教えてくれた。パイロットブックには 3m の深さがあるはずなのだが忠告に従うことにした。そうこうしている内にマリーナに居た地元の人が係留場所を案内してくれた。

案内してくれた岸壁には Profesional fishing boat only と書いてあるのだがノープロブレムとの事バウにアンカーを打ってスターン着けする。風が強い中の着岸だったので地元の人が手伝ってくれ助かる。

係留後タクシーを拾いここから 8 km 程にあるコリントスの遺跡を見に行く。生憎と 15 時閉園で中には入れなかったが外から紀元前 7 世紀に商工業都市で栄えたコリントスの遺跡を見る事が出来た。ここにもアポロン神殿がありドリア式の円柱が 7 本残っており、38 本全部であったそうだがその全景を想像して当時の建築レベルの高さに驚く。

帰ってから艇のシャワーを浴びて、夕食は鶏ももの香草焼き、ルッコラとトマトのサラダ、ピメントマリネとアンチョビ、ブロッコリィを頂く。日中の航海、着いてからの観光を終わってからの夕食作りには感謝する。

10月4日(木)Corinth 晴れ後雷雨

今日はレンタルカーを借りてペロポネソス半島の世界遺産を見に行く。最初にミケーネ遺跡に行く。ミケーネ文明は、クレタ(ミノア)文明から引き継ぎ紀元前 15 世紀ごろから紀元前 12

世紀にかけて栄え、紀元前 10 世紀にドーリア人によって滅ぼされた文明だ。

ここはシューリマンによって発掘され、これまでは神話の世界と考えられていたことが歴史的事実であると裏付けられた所だ。城塞の入り口には Lion Gate が立派に数千年の歴史を忘れさすように建っている。円形墓地にはアガネムノンの黄金マスクが発掘されている。Palace やその他数々の遺跡を見る事が出来た。

ミケーネの後紀元前 6 世紀から栄えたエピダヴロスの遺跡に行く。ここは医療施設を中心に劇場、体育訓練所が建てられ古代ギリシャ時代の医療の中心であった。紀元前 4 世紀に建てられた古代劇場は立派でギリシャに残る古代劇場の中で最も保存状態が良い。又敷地には音楽堂、競技場、宿泊所も設置されていた。

その後半島の南にあるミストラ遺跡に行く。時間が遅くなり閉門迄 30 分しかなく要塞のある頂上まで登るのが精いっぱいだった。

ここは 13 世紀に十字軍の要塞が築かれその後ビザンチン帝国、オスマントルコ、ヴェネツィアの支配を受け 18 世紀アルバニア軍の侵攻で衰退の道を通った所だ。山の上の要塞からの展望は素晴らしい。



この街は文化人が集まり“オリエンタルのフィレンツェ”として栄えたそうだ。帰りに近くにあるスパルタ遺跡を覗いたが少々の遺跡があるだけで見るべきものはなかった。今日一日でミケーネ、エピダヴロス、ミストラと 3 つの世界遺産を観た。

帰りが 20 時過ぎになり遅くなったが、お赤飯、秋刀魚の山椒煮、マーボ・ナスを作ってくれ艇内で美味しく頂く。

10 月 5 日(金)Corinth~ Pireus(38NM)快晴

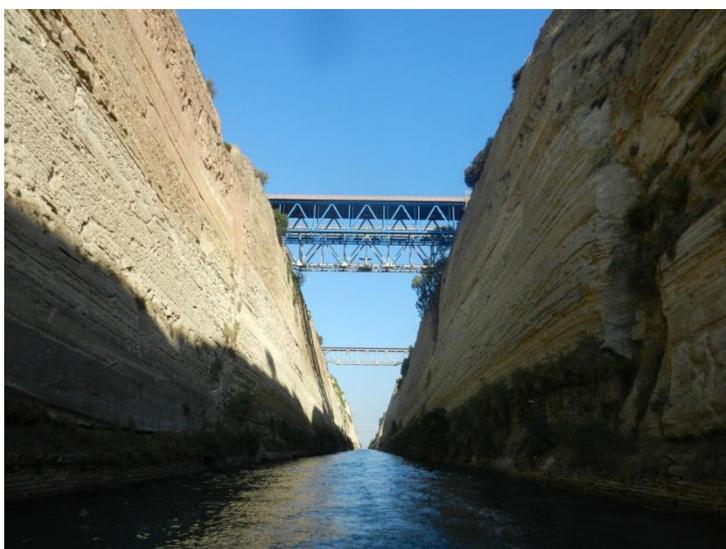
プロポネソス半島はもう少しゆっくり見たかったが明日強風の予報が出ているのと、アテネ

で乗る予定の田中厚一郎さんが 5 日にアテネに到着するので今日アテネ、プリウスに出港することにした。マリーナの管理者もいなく電気は使えなかったが水は使えて係留料は無料だった。

マリーナからコリントス運河の入り口までは 1.2NM だ。08:20 にマリーナを出てから直ぐ Corinth Canal Control を VHF で呼び出してコリントス運河の通過の許可をもらおうとラッキーにも直ぐ来いとのこと、そして入り口の湾に入るとパイロットボートについて行けとの指示が来た。

他艇はいなく CAVOK V 一艇でパイロットボートの先導で、すんなりと 3.2NM の運河を通過できた。

この運河は紀元前 7 世紀から運河開削の計画があったそうだが実際運河を開削し出したのは紀元 67 年にローマ皇帝ネロが始め 3.3KM 開削したところで皇帝ネロが亡くなりその後は中断してあった。



時代が変わりフランスの協力を得て 1882 年から 1893 年完成された全長 6343m、幅 24.6m、丘の高さ 79m の運河である。約 20 分で通過して東側の出口で通行料 245€を支払う。

アテネ側のエーゲ海も良いお天気で西の追い風を受けてアテネ、プリウス迄気持ち良い帆走が出来た。

お昼はナス入り温麺とお赤飯のおにぎりをビールで頂く。海でのお昼は美味しい。途中田中さんより電話が入り、既にプリウスの Zea Marina に着いたとの事で艇の係留の予約もして頂いた。

マリーナの外側のベーズンに入ると田中さんが手を振ってくれ係留場所を教えてくれた。田中さんとの再会を艇の上で祝してから 2 日ぶりに陸のシャワーを浴びる。夕食は近くのタベルナで食事することにして海が一望できるレストランを探し食事する。

10月6日(土)Pireus

北風の強風の予報なのでピレウスに停泊して皆でアクロポリスの観光に行く。

アクロポリスは徐々に復元され5年前見に来た時よりパルテノン神殿は大きくなったような気がした。古代ギリシャの力、技術を代表する遺跡だ。下から見るアクロポリスも見事だが丘の上のアクロポリスから見るアテネ市内の眺望も素晴らしい。



見学の後国立考古学博物館に行く。ここにはギリシャ全土からの出土品が集まりギリシャ彫刻・美術の真髄に触れることが出来た。ここでミケーネで発掘されたアガメムノンの黄金のマスクを見る事が出来た。

遅いお昼はタクシードライバーお奨めの Zea Marina に近い港のレストランでシーフードサラダ、フォーシーズンサラダ、ムール貝、パエリヤ、生クリームと鶏肉のペンネを海辺の席で地中海の風を受けながら食べる。

艇に戻り休んだ後、明日からの食事の買い出しに行く。今晚は田中さんが近く中華料理屋でご馳走してくれることになりお言葉に甘えることにした。少し濃い味付けであったが外れない中華料理であった。